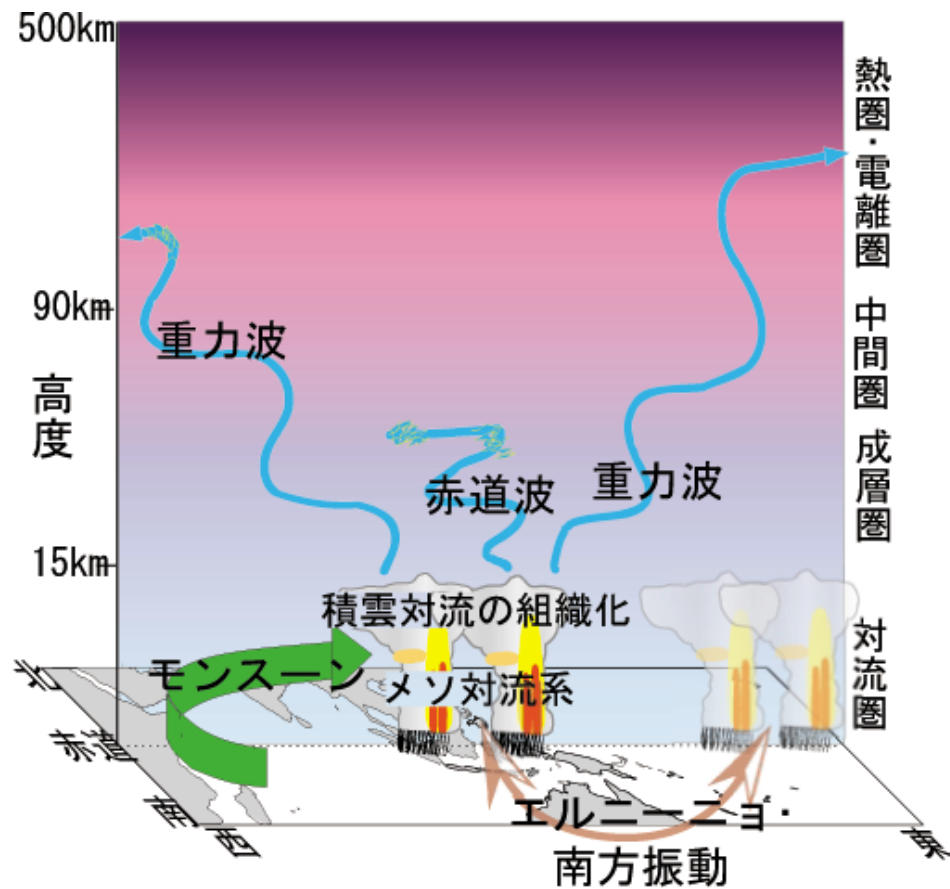


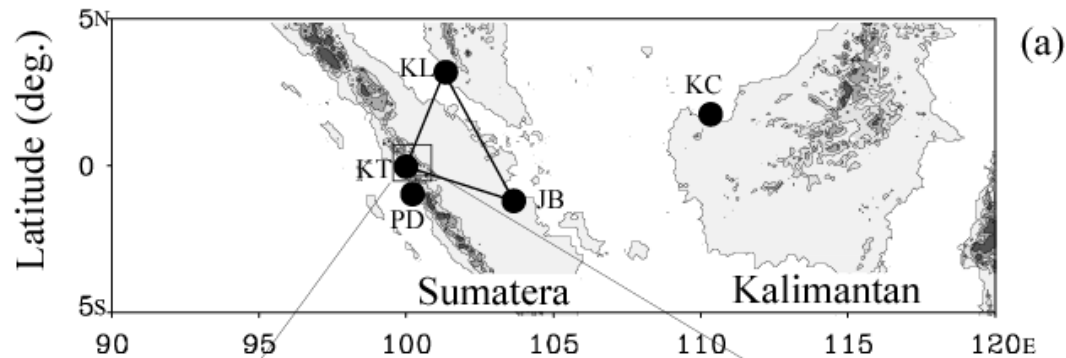
# CPEA-Iキャンペーン期間にインドネシア海洋大陸 で観測されたスーパークラウドクラスターのevolution とそれに対応した風速場

柴垣佳明 (大阪電通大)  
古津年章・下舞豊志(島根大)  
森修一(JAMSTEC)  
村田文絵(地球研)  
藤吉康志(北大低温研)  
橋口浩之・深尾昌一郎(京大RISH)

# 赤道域対流活動と大気波動



# CPEA-I対流圏特別観測 (2004年4月10日～5月9日)

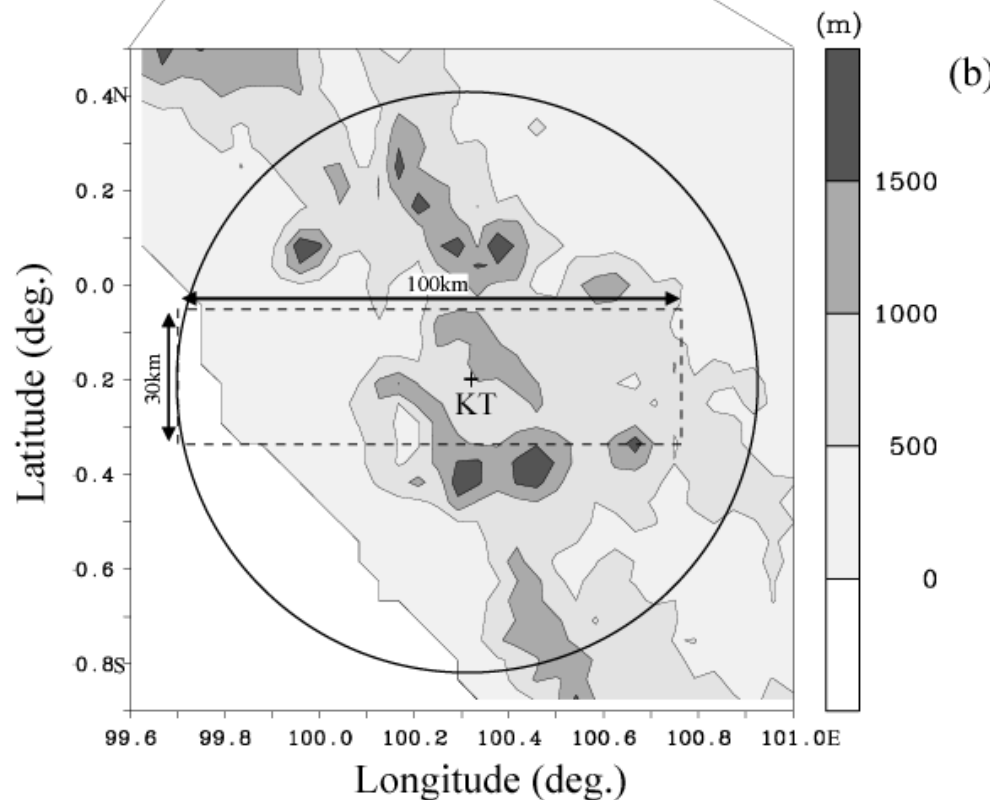


KT-KL-JB:  
スマトラ赤道域の鉛直流

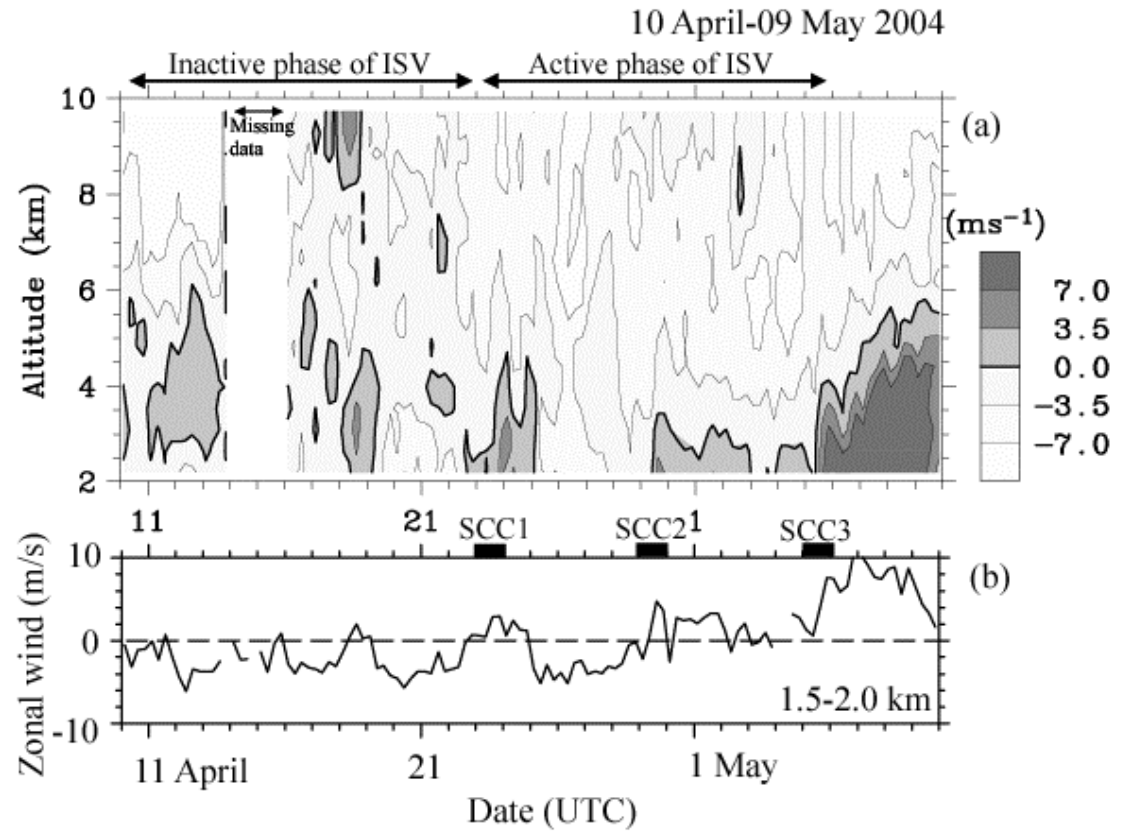
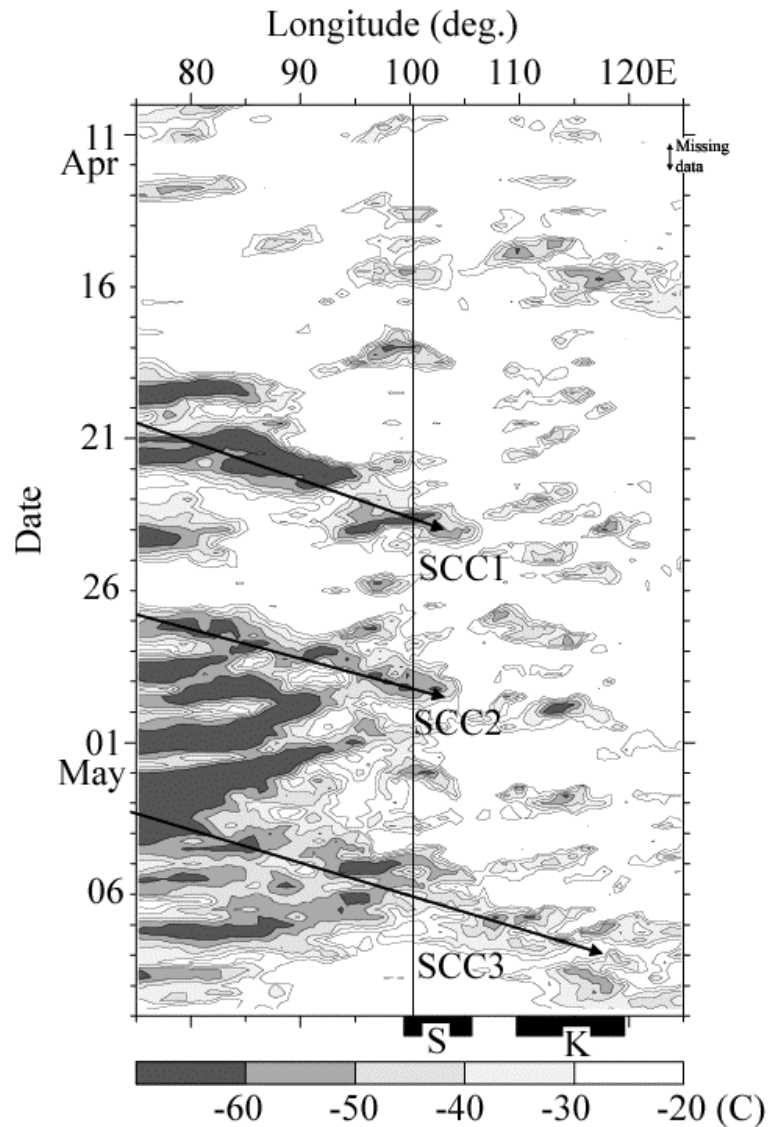
KT-JB-KC:  
SCCの移動に対応した風速場

KT-PD:  
山脈付近の風速場

KT: 気象レーダー  
BLR・EAR

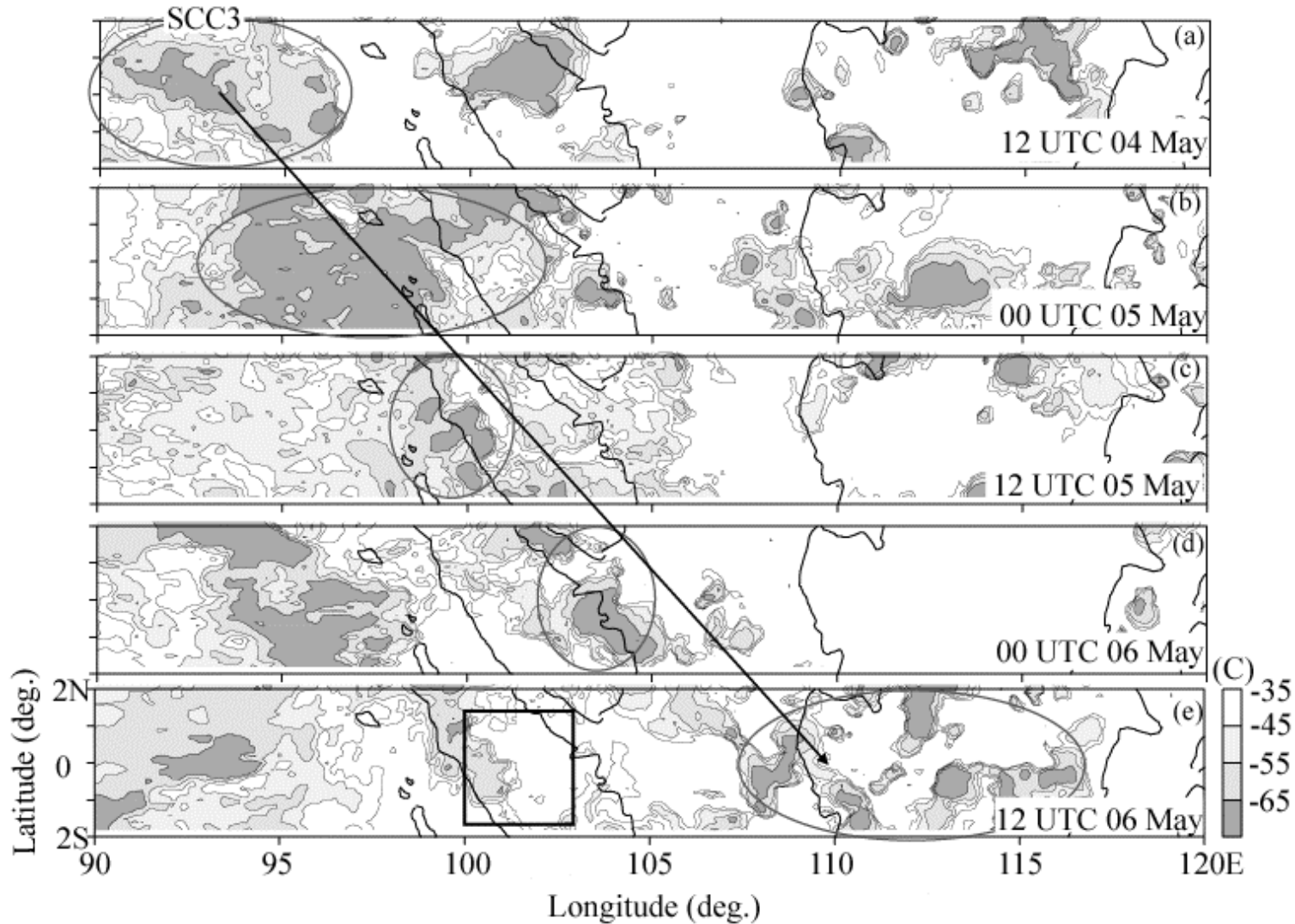


# CPEA-I期間の対流活動

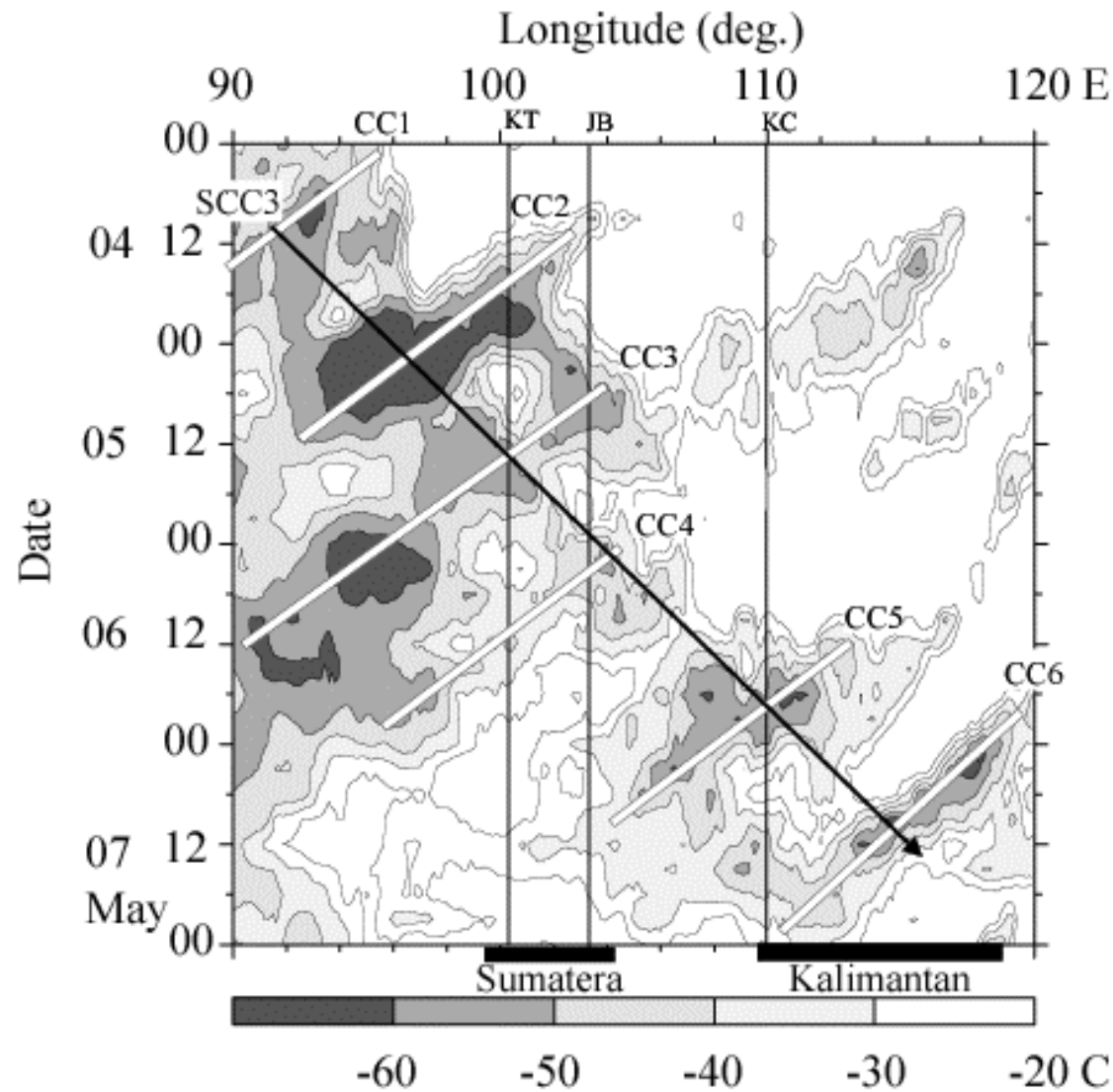


西風バースト(WWB)を伴うSCC3  
が海洋大陸を通過

# 海洋大陸でのSCC3のevolution

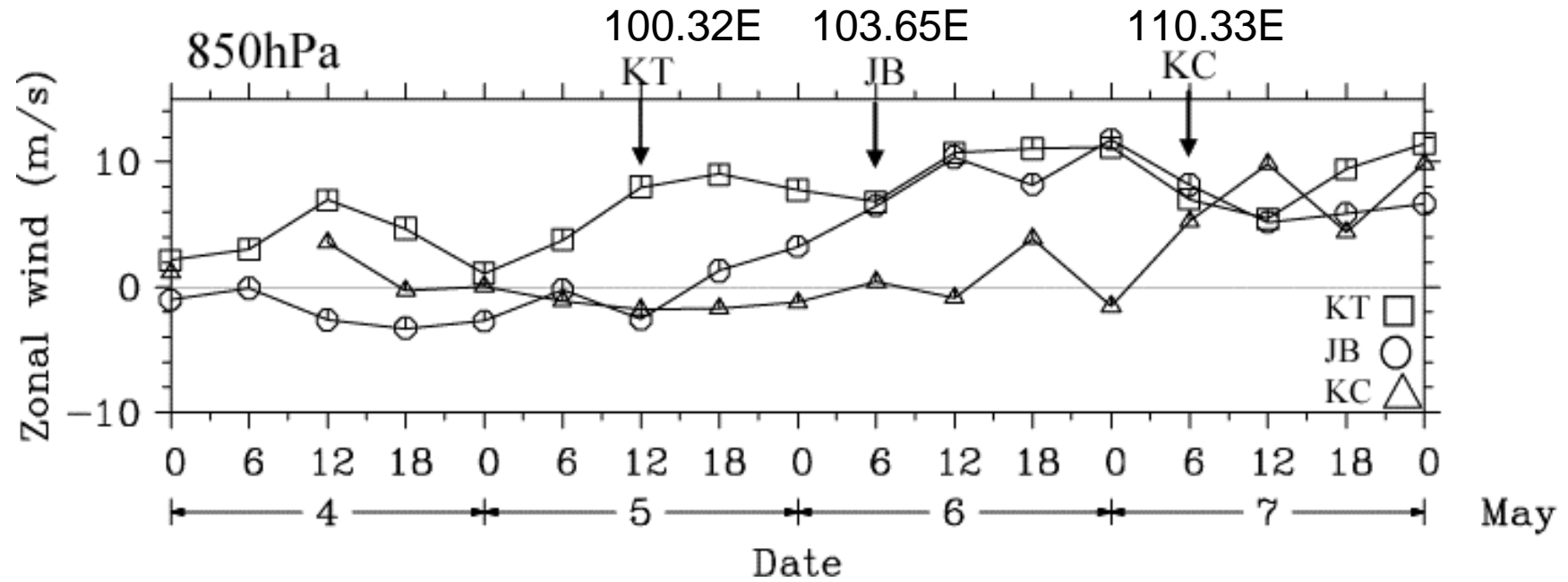


# SCC3の内部構造

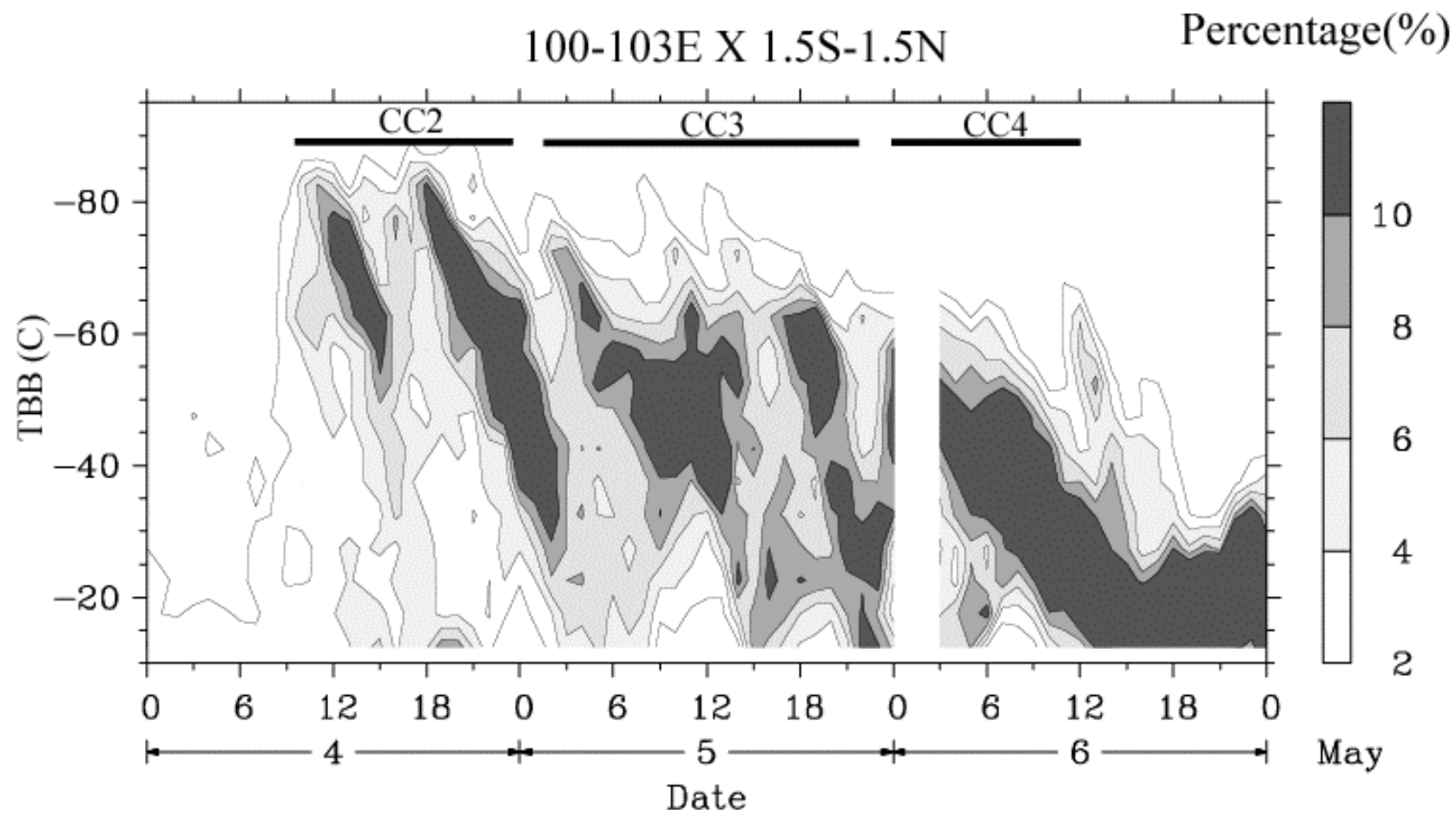


SCC3の東進  
メソスケール雲クラスターの  
連続的な形成

# WWBの東進

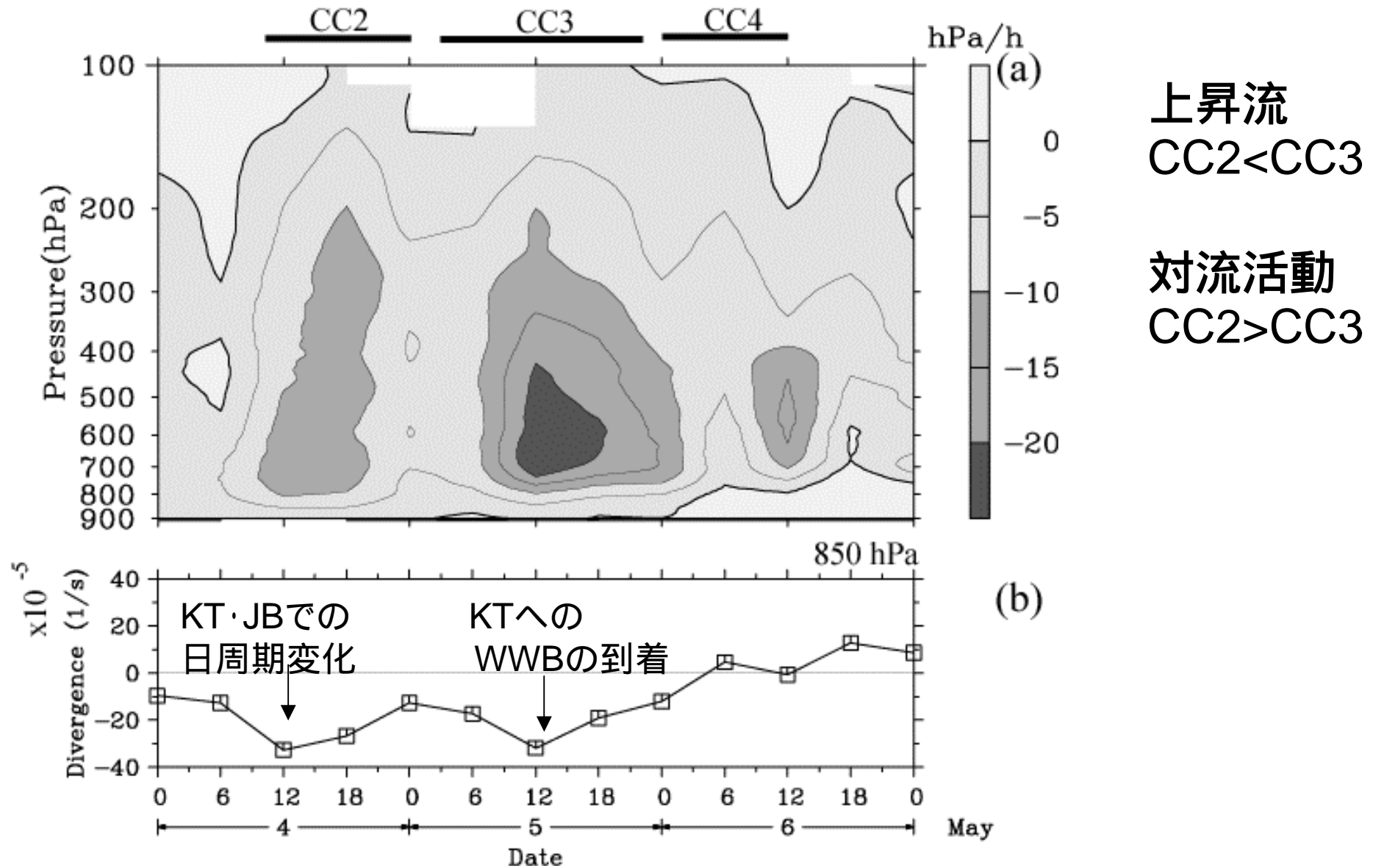


# SumateraでのSCC3の対流活動

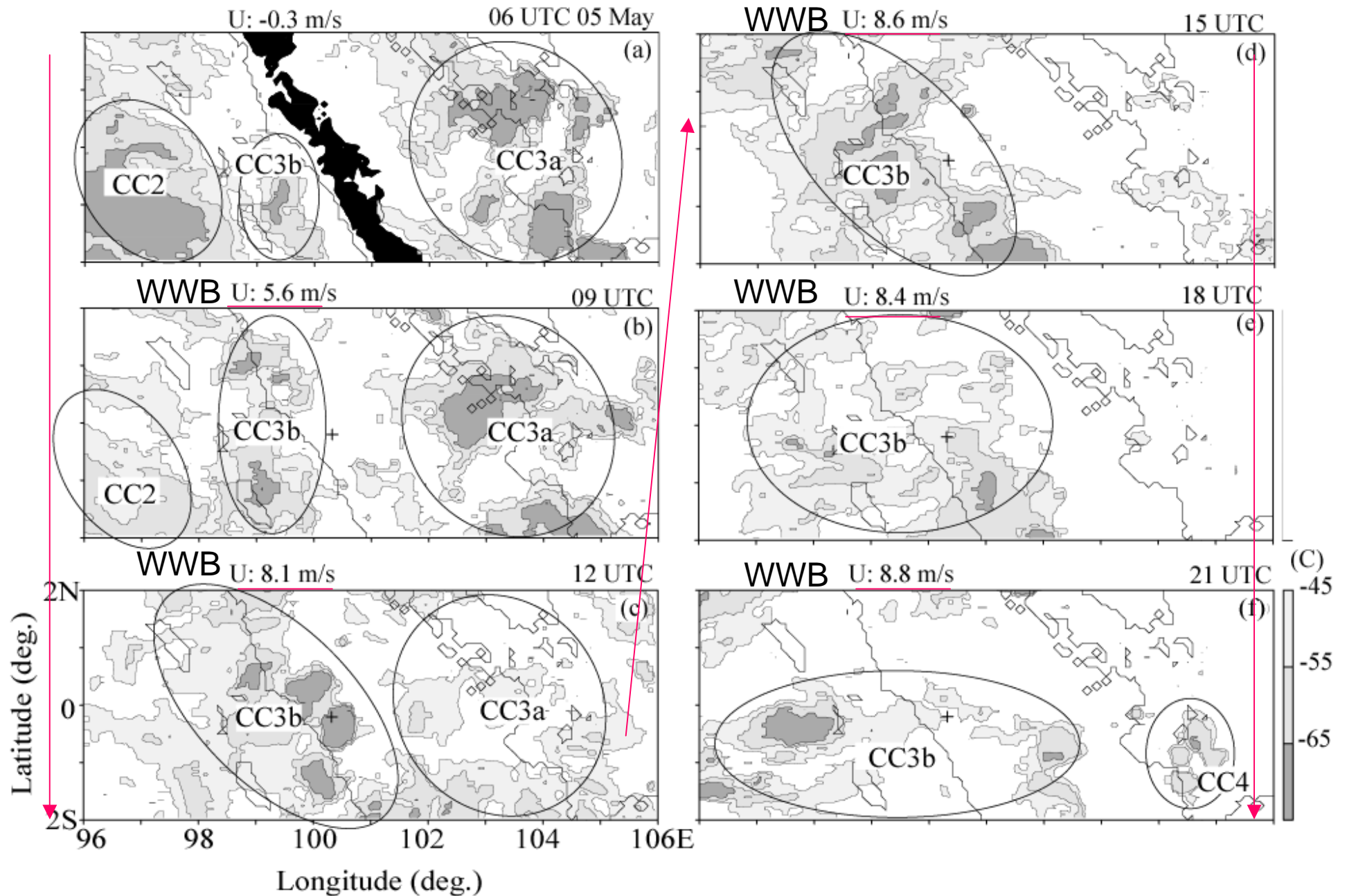




# Sumateraでの下層発散と鉛直流



# WWBに対応したCC3のevolution



# CC3bの持続とWWBの移動

WWBの移動速度:

KT-JB: 18 km/h

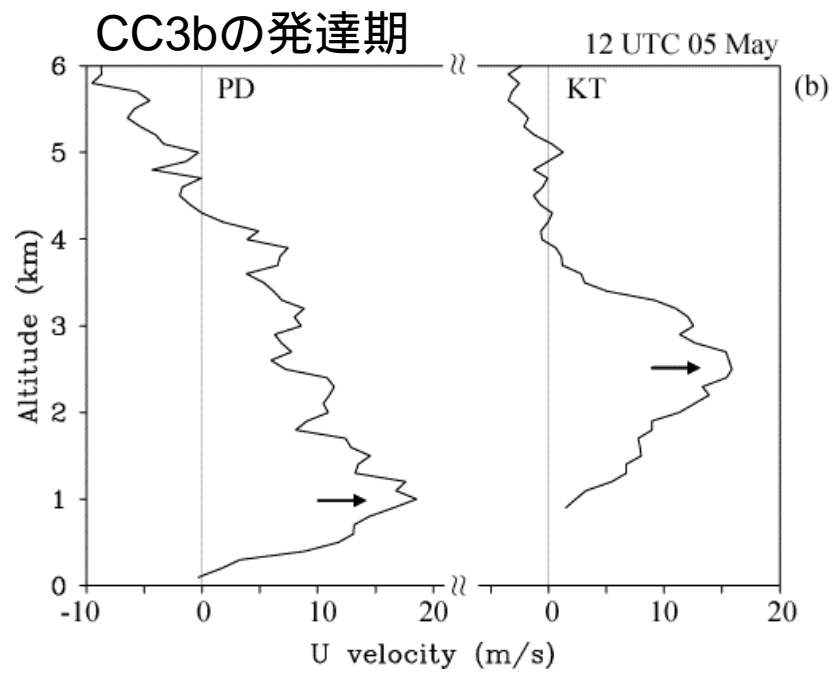
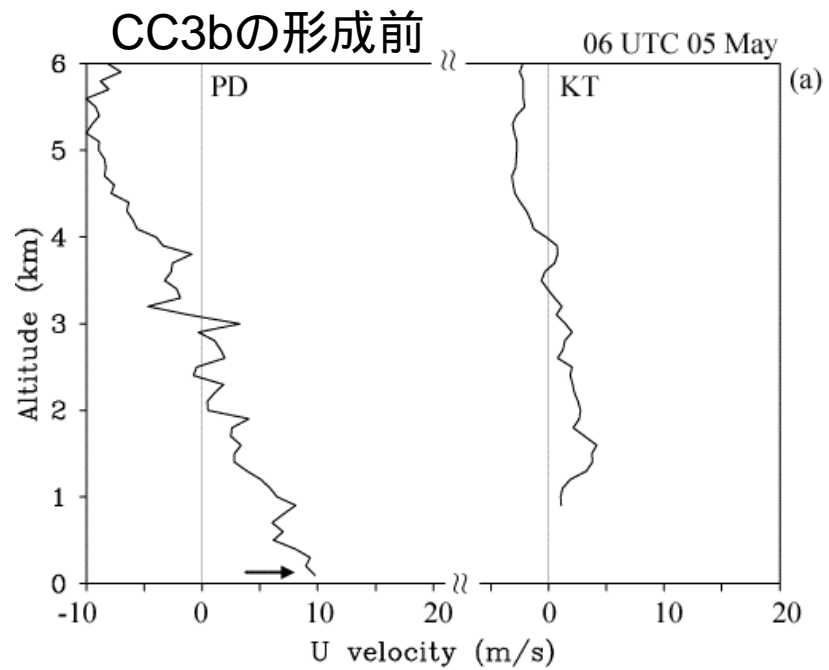
(スマトラ)

JB-KC: 31.5 km/h

(スマトラ-カリマンタン間の海上)

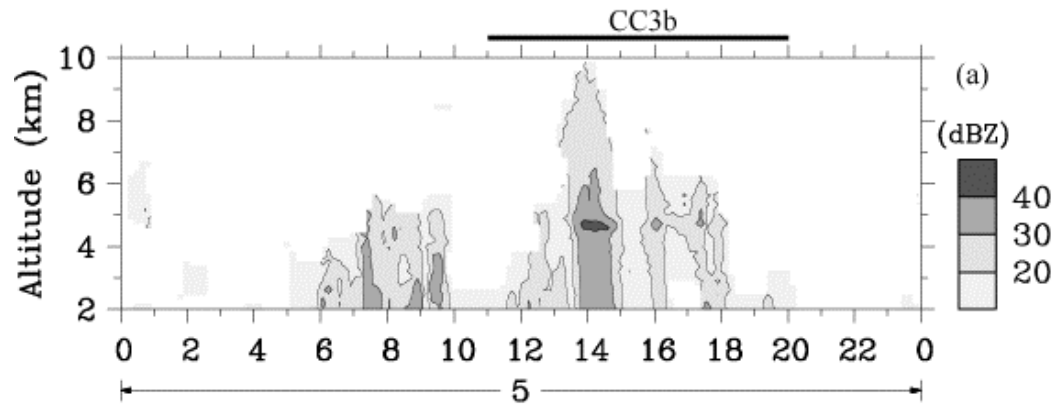
WWBが海上の早い速度で一様に海洋大陸を移動したと仮定  
JBでのWWBの到着時刻は実際よりも12時間早まる。



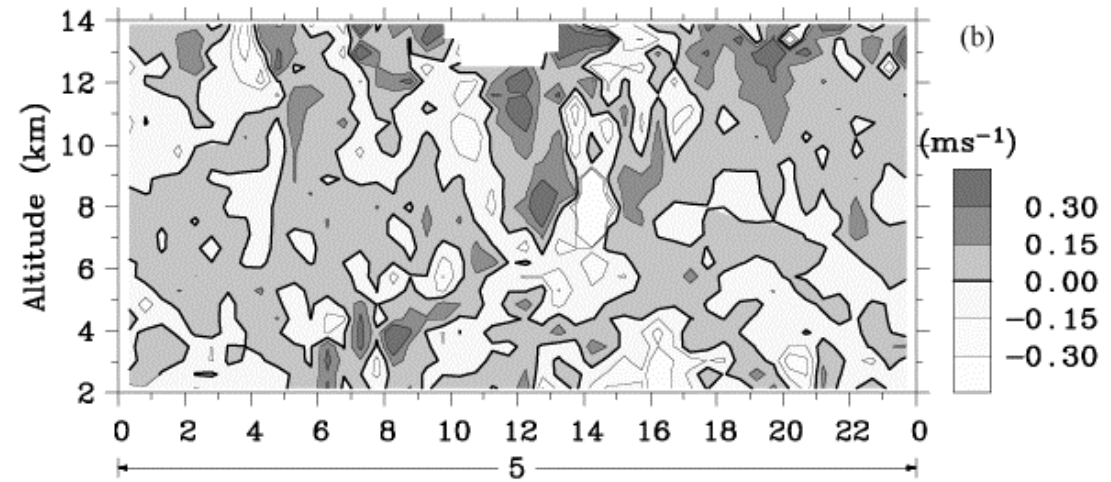


# KTでの観測データ

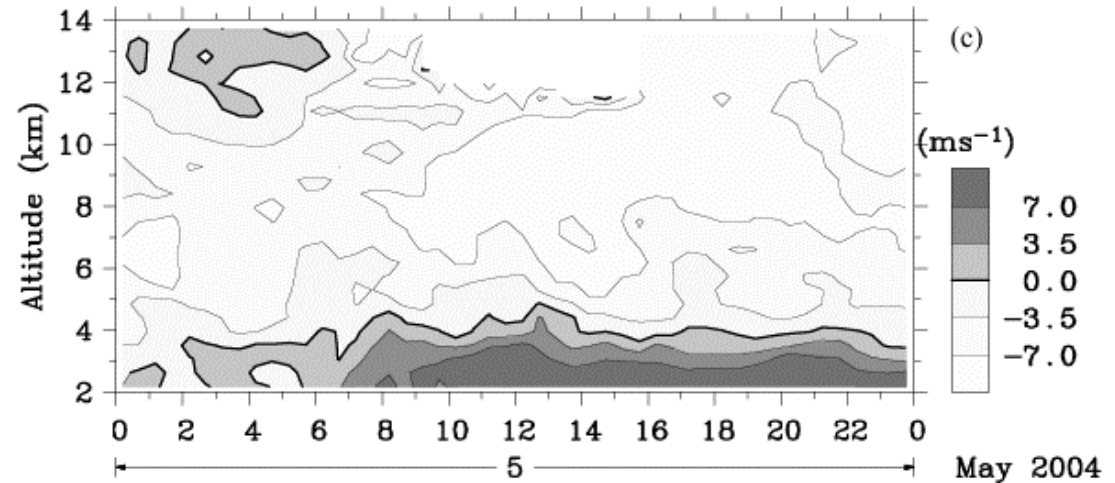
## BLRの降水強度



## EARの鉛直流



## EARの東西風



# まとめ

- 東インド洋で発達したSCCの活発域は、スマトラ到着時に一時的に縮小した。
- SCC活発域の縮小は、西スマトラの山脈へのWWBの到着と同時に始まった。
- WWBに対応した強い上昇流がスマトラで観測された期間、SCC活発域は山脈付近で長時間持続した。
- WWBによる地形性上昇流と上層の波活動との関連は？